

## 第6次知多市総合計画審議会〔第6回〕

【日 時】 令和元年7月9日（火） 午後3時～5時

【場 所】 知多市役所3階協議会室

### 【出席者】

会 長 吉村輝彦 日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授  
副会長 入江容子 愛知大学 法学部 教授  
生田祐江 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者  
市野 恵 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事  
片山麻有 愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者  
河村康英 社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 地域福祉課長  
久野美奈子 特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事  
近藤通哉 株式会社 日本政策金融公庫 国民生活事業部 信越地区統轄  
高山博好 環境省 環境カウンセラー  
竹内栄道 知多市商工会 監事  
竹内徳得 知多市観光協会 副会長  
富田敬子 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者  
長倉剛士 日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表  
西尾和男 知多市コミュニティ連絡協議会 会長  
野尻紀恵 日本福祉大学 社会福祉学部 教授  
松本幸正 名城大学 理工学部 教授  
水内智英 名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長  
峯神亜由美 知多メディアスネットワーク株式会社  
営業部 集合・法人グループ グループリーダー  
吉川佳代 知多市社会教育委員  
(事務局)

【欠席者】 榊原秀敏 あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長

【傍聴者】 8名

### 【議事次第】

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
  - (1) 重点戦略について
  - (2) 分野別計画について
- 3 その他

## 【会議の概要】

### 1 会長あいさつ

[事務局]

事務局の企画情報課長、細川です。

毎回、願っていることですが、記録のための写真撮影を行いますので、よろしく願いいたします。

なお、本日の会議におきましては、あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長の榊原委員より、欠席のご連絡をいただいております。片山委員からも、30分ほど遅れるとのご連絡をいただいております。他にも、到着されていない委員がいらっしゃいますが、時間となりましたので、始めさせていただきます。

現在の出席者は17名で、定足数に達していることをご報告いたします。

それでは、会長、よろしく願いいたします。

[吉村会長]

それでは、ただいまから、第6回知多市総合計画審議会を開催したいと思います。

委員の皆さまには、ご出席いただきありがとうございます。

前回の会議から、3か月弱だと思いますが、第1回から議論し、やっところまでできていますが、これからのように整理していくのかとりまとめていく上で、まだまだ大事な会議が続いていきますので、今日も有益な会議が進められればと思っております。

今日の会議では、すでに皆さん座っていただいていますように、3つのテーブルに分かれています。今回のテーマは分野別ということもあり、全体で議論するには人数も多いし、1人あたりの発言が限られてしまうということもありますので、できるだけ皆さんの専門性に引き付けて分野別検討の議論をしていきたいということ、あるいは限られた時間の中で、多くの意見を共有しながら議論していきたいということで、このような形にさせていただきました。

今回は、私と入江副会長と松本委員に、テーブルのファシリテーターをお願いしておりますので、よろしく願いいたします。

なお、今日から委員として新たに委嘱された西尾委員がいらっしゃいますので、事務局から紹介をお願いします。

[事務局]

それでは、ご紹介させていただきます。

本日、参考資料2として委員名簿をお配りしておりますので、ご覧ください。

知多市コミュニティ連絡協議会会長としての竹内誠さんの任期満了に伴い、6月から会長を務めていらっしゃる西尾和男委員です。

それでは、西尾委員には、簡単に自己紹介をしていただきたいと思います。

[西尾委員]

6月7日に知多市コミュニティ連絡協議会の役員改正があり、新たに会長を務めることになりました。西尾和男と申します。

現在は、社会福祉法人知多福祉会の理事長を務めており、地域活動、地域共生のあたりといった視点から意見を言えたらと思っています。よろしく願いいたします。

## 2 議題

### (1) 重点戦略について

### (2) 分野別計画について

[事務局]

【配布資料の確認】

【「第6次知多市総合計画の体系」について説明】 【資料1】

【「第6次総合計画の進行管理について」について説明】 【資料2】

【「重点戦略のつながり（イメージ）」について説明】 【資料3】

【「重点戦略（案）」について説明】 【資料4】

【「分野別計画（案）」について説明】 【資料5】

[吉村会長]

これからはテーブルごとに議論を進めていきたいと思いますが、今日は議論する内容が多くあるので、前半、後半に分けて議論し、前半のある段階で一旦全体で共有・確認し、改めて後半の議論をしてさらに共有・確認するステップで進めていきたいと思っています。

分野別計画に関しては、今回の審議会である程度方向性を固めていくということもあるので、是非、皆さまの経験、専門性を活かしたご意見・ご提案をお願いします。

説明にありましたが、第1回審議会で総合計画をどうしていきたいという議論があったと思いますし、できる限り未来を見据えていきたいということもあるので、本日の資料を見ていただきながら、本当に未来に向かっているのか、自分のこれまでの取組からこうしていく必要があるのではないか、その部分で足りないところなどはないか、是非ご意見をお願いします。

テーブルはひとつづくり、あんしんづくり、にぎわいづくりと分けていますが、場合によっては、テーブルに割り当てられたテーマを超えても良いかと思っています。

今から30分程、前半の議論を進めてください。よろしくお願いします。

### 【吉村会長（あんしんづくり）のグループ発言骨子】

[吉村会長]

前は重点戦略について議論したが、今日はそれに紐づく分野別計画が示されている。重点戦略について議論しても良いし、分野別計画から議論しても良い。

私の原点は、子育て・子育ちは学校での教育だけでなく、それぞれの主体が色々なリソースを活かしながらきちんとやっていくためには、どのような形で整理していったらできるかということがこの会議体での一番の想いとしてあるので、そのようなことを意識しながら皆さんから意見を頂きたい。

例えば、資料4の2ページ目の「あんしんづくり」の下に政策が整理されている。それを見てまだまだ足りないようなものがあればお話しいただきたい。

[市野委員]

総合計画の中で地域づくりは大切であるが、大きな施策があり、人がいて、その間につなぐ人がいないといけない。そのあたりは「ひとづくり」とも紐付いてくると思う。その難しさをどのように表現するのか、理解して帰れるとよいと考えてきた。

[吉村会長]

仕組みを作る、体制を整備するのではなく、もう少し具体的に、こういう人が必要であるとか踏み込んだ内容なのか。

[市野委員]

福祉施策の中では、生活支援コーディネーターが活動しているが、もっと身近に、声をかけたり、誘ってもらえるような関係性がないと取り残されてしまう。専門職というイメージではない。

[高山委員]

専門職は少し敷居が高いので気軽に相談できないのではないかな。

90歳になる自分の親が介護が必要になり、先週介護認定を受けたが、日を追うごとに体調が悪くなり、寝返りが打てなくなった。普通の人ではどこに相談したら良いかわからない。市役所に相談すればそこから包括支援センターなどを紹介してもらえるが、市民にはそれすら分からないのが現実。

皆が最低限の知識があれば良いが、そういうわけにはいかない。

[河村委員]

人口が減少するのは前提で、少子高齢化が進む中での総合計画において、制度や政策で電球を1つ替えるということに税金を使うことは難しく、先ほどの相談のような話もそうだが、支え合いの中でやれることをやっていく、ということが重要になる。

しかし、その仕組みをつくっただけでは上手くいかない。

市野委員が発言したように、どのように関係性を作るかが重要。お互い様で、集える場所があり、そこに行って自分ができる何かをすることで関係性ができていくのではないかな。

分野別にいろいろな施策を書くことも大切だが、それを機能させるための人と人とのつながりを意図的に作る仕掛けを、市民レベルで楽しく取り組みながらできると良い。文章にすると難しいが、総合計画でストーリー性をもって整理できると良い。

[生田委員]

自分の得意分野としては、「あんしんづくり」の中の「④生涯を通じた健康づくり」についてであるが、仕事柄色々症状が出てしまっている現状を見ていると、子どもの頃から健康管理に取り組むなど、市全体でもっと考える必要があると思う。また、子どもからもっと健康で過ごせるようなアプローチをしていきたいと思っている。

元気な大人になることで、年をとっても円滑な生活を送ることができるのではないかな。

[峯神委員]

この間新聞のチラシに記載してあった内容でいいなと思ったのは、新聞購読の契約をされている方で、事前に家族等のメールアドレスを登録すれば新聞を配達する際、前日の新聞や何日か新聞が残っていたら、家の中で誰か倒れている可能性があるため、登録しているアドレスに連絡をするという仕組み。民間事業者の取組でお互いにWin—Winとなり、あんしんにつながる。そういった見守りの方法もあるのではないかな。

[河村委員]

企業のCSRのような社会貢献的な活動の仕組みが充実すれば、そのまま進めれば良い。

社会福祉協議会では「あんしんとなり組」事業を自治会単位で進めている。70の自治会組織で、要支援者登録している方の情報を平常時から地区に開示しているが、見守り支援の対策がなかなか構築されない。

母体となる町内会への加入が減っている中で、自治会や町内会に頼るやり方は難しくなっている。地域の役割は大切にしつつ、いろいろな立場の方の取組みを融合し、良い意味で皆で気にかけていく。個人のプライバシーを侵さない程度で、お互いの生活に少し触れる活動をしていくことが日々の安心につながるのではないかな。

[吉村会長]

分野別計画の「地域・市民活動」の「②地域活動の支援」に関係しているかと感じる。

既存の組織や専門職の人に頼りきるというやり方だけでなく、地域の中で様々な立場の方が何かできることを少しずつ持ち寄るという方法もあるのではないかな。少しの心遣いができるまち、企業もそういった視点で活動するというのも1つのやり方ではないかな。

[高山委員]

行政や民間企業では動きにくい分野、社会課題に対し、障がい者がその担い手として参画できる可能性がある。例えば社会参画のトレーニングとして、ワンコインで行政や民間企業が請け負いにくい事業を請け負えると良い。

短時間で簡単な作業なら行うことができるため、先日、高齢者が入院し、飼い犬である大型犬の散歩ができず困っているという話を聞いたので、犬の散歩の仕事を受けた。

[吉村会長]

先週、テレビでも取り上げられていたが、障がい者に雇用を与えるのではなく、いろいろな局面で才能を活かすことができると良い。

[市野委員]

国は障がい者の雇用の幅を拓げる取組をしている。これは知多市でもやっていくべきだと思う。

知多市のコミュニティ施策は、今後も同様に進めていくのか。もし、既存団体で成り立っていないかと思うのであれば、総合計画の中でどのように取り組んでいくのか位置づける必要がある。

これまでは、自治会などコミュニティを対象に研修を行ったり、委託事業を行い、組織運営をしてきた。それが成り立たないのであれば、企業と連携するのか、個人の繋がりを強化するのか、どのように維持していくかを明確にする必要がある。

[吉村会長]

あんしんづくりをどのような基盤の上で進めていくのかということだと思う。そのあたりは、多くの人は気づいているが、なかなか踏み込めていない。

現在の仕組みがこれまでの50年間の積み上げで成立しているので、それをやり直すには、これから同じ50年間のスパンで少しずつ変えていくように取り組まないと変化しないのではないかと。

[高山委員]

50年というのは結構長い。私は短期間で一気に変えたい。起爆剤となる役割を誰かが担う必要がある。それを私がやりたいとも思っている。

新しく知多市に来た住民と古くから知多市に住んでいる住民が交流できる仕組みがないかずっと考えている。知多市で「〇〇台」と名前が付く地名は新興住宅街で、昔からの集落との交流が少なく、温度差もあると聞いている。

賑わいは作ってできるものではなく、静かなまちづくりを進めることで賑やかになるということも前回、提案した。

例えば、企業のCSR活動と新旧の住民が一緒になって取り組むイベントを積極的に行ってはどうか。知多市は緑が多いといわれているが、私からみれば、自然度が低く、他所から見に来たい緑ではない。耕作放棄地や竹藪には観光客は来ない。緑園都市に相応しい緑を整備すべきであるし、耕作放棄地や竹藪を里山や竹林に戻すなど、そういうところに企業のCSR活動や新旧の住民が関わることで、緑豊かな知多市にしたい。

[吉村会長]

そのようなことを総合計画にどのように位置づけたら実現できるのか。

例えば、「にぎわいづくり」の中に、「③緑と花に包まれた住環境づくり」が位置づけられている。イメージは似ているが、どのように動かしていけばよいか。

[市野委員]

子ども達は緑と花のまちづくりということで、コミュニティの中に花壇があるということが当たり前になってきている。緑に関することをみんなでやりましょう、と市民や企業がやるべきことを決めていけば進んでいくのではないかと。

[吉村会長]

中間支援を行う人、場をコーディネートする人がいろいろな主体を繋げ、それぞれのリソースを出し合いながら事業を行っていくことも考えられる。

[高山委員]

「知多未来塾」の事業なども、考えるよりも行動に移す方が良いのではないか。やりながら考えることが求められる。

[市野委員]

NHKの未来塾という番組の中で、学生が東北の海で釣りをして、釣れた魚の放射能を測定して、消費者に受け入れられるか体験しながら調査に取り組んでいた。そういったことをしていきたい。

[吉村会長]

そのような活動やチャレンジを後押しする計画にどのように仕立てていくか。

[峯神委員]

緑が多いというが、手入れされていない緑は、犯罪率をあげるというデータもある。

あんしんづくりという観点では、緑が多いというのは安心ではない。手の入った緑でなければならない。

[高山委員]

手入れされていない緑は、犯罪の温床になってしまうし、ごみを捨てやすい場所になってしまう。

[吉村会長]

都市計画の分野でも犯罪が発生しにくいように環境を整備していく。

防災・防犯対策よりもハード整備が求められる。

## 【入江副会長（ひとづくり）のグループ発言骨子】

〔入江副会長〕

このグループは、「ひとづくり」に関して討論するグループだが、関連することであれば他の2つの「〇〇づくり」についてもご発言いただければと思う。

まずは、重点戦略と分野別計画の位置づけについて確認する。総合計画は3層構造となっており、一番上に基本構想があり、それをより具現化するものとして基本計画、その下にさらに身近な事業をとりまとめた実施計画がある。基本計画とは、実施計画を種類別にまとめたものが通常であるが、今回の第6次総合計画では、分野別計画の中で重点的に取り組むものを重点戦略として特出しているという形である。まずは、重点戦略についてご意見を伺いたい。

〔吉川委員〕

「ひとづくり」の項目の中で、「学びを楽しむまちづくり」という言葉がある。楽しむだけではなく、楽しんで学んだことを「活かす」まちづくりという視点を加えたほうが良い。生涯学習というものは、学んだことを活かして初めて循環的になって成立するものなので、「学びを活かす」というものを入れたいらどうか。

〔野尻委員〕

分野別計画の学校教育については、他の分野と重なる記述が無い。あんしんづくりやにぎわいづくりについてどこで学ぶのか、人が育っていく中で、学力の向上などがメインで書かれているが、繋がることなどをどのように学んでいくのかということなどをどこかに記述して欲しい。重点戦略ではないが、分野別計画と切り離して議論することが難しいので、取り上げた。

〔入江副会長〕

私も同じ感想を抱いていた。「02学校教育」では、地域との連携について言及があるが、その取組についての書き込みが無いため、更に詳しく記述しても良い。

〔野尻委員〕

ひとづくりの重点戦略にある「次代の担い手を育む」というフレーズに引っかかった。強い人材にだけフォーカスが当たっているという印象を持った。むしろ、どんな人材であっても学べる環境というものが大事なのではないかと感じた。「その人自身が育っていく」というニュアンスを入れたい。また、子どもを主語にした表現が必要ではないか。

〔富田委員〕

この分野別計画に対しては、「お勉強させられそう」という印象を受けた。勉強も大事であるが、丈夫な体を作る、自然に親しんで遊ぶという子ども像を大事にしたい。知多市には緑があり、豊かな自然があるが、その魅力と切り離されているのはもったいないと思った。知多市の環境で、のびのびと子どもが育っていくことが思い浮かべられるような項目があると良い。

[入江副会長]

従来型計画の限界かもしれないが、どうしても各課の表現となっているので、市民の感性と異なるかもしれない。

[野尻委員]

児童福祉法が改正され、児童は守られるだけの存在ではなく権利を持っていて、尊重される存在と明記された。従来の表現にこだわっていると、「子どもは育てられるもの」という考えから抜けられない。総合計画は市の最上位計画で、他の個別計画への波及効果を考えると古い表現にとらわれず新しい表現を取り入れて変えていってほしい。

[近藤委員]

重点戦略のつながりイメージ図だが、それぞれ円の大きさが違う。「重点」戦略であるはずだが、その中でも重点度の優劣があるのか。あるにしても、なぜそれを重点としたのかを示してほしい。子育てよりも多様性や学びの扱いが小さいということについて、説明が必要である。前回までは納得できる図であったのに、今回急に変わってしまった。

[入江副会長]

確かにそうである。図自体が複雑である。繋がっているのに、線の太さや丸の大きさが異なる。意図が伝わりにくく、混乱を招いている。重点戦略は、分野横断的であるので、どの課が関わるかを示してもよいのではないか。

[西尾委員]

教育の分野の話になるが、先日ある中学校の授業参観を見学した。この時に、改めて「学べる」ということの素晴らしさを感じた。これを伝えるにはどうしたらよいかを考えたい。

[入江副会長]

子どもの主体性や子どもの権利について、与えたというだけではなく、これをどのように活かすか。教室での勉強だけではなく、人間性という観点からの「成長」を促す「学び」なのだろう。

[吉川委員]

「04文化」の(1)の表現が不適切と感じた。「歴史や伝統文化を適切に保存」という言葉に違和感があり、「適切」とは何を意味するのか分からない。また、観光や教育との関わりもあるのだろうか。

[入江副会長]

「文化財の適切な保存」であればわかりやすいが、「歴史や伝統文化を適切に保存」はわかりにくい。「適切に」という言葉は要らないのかもしれない。

[野尻委員]

「02学校教育」について、「学校・家庭・地域・市が連携し」とあるが、「知多市の教育」の中でも同様の記述があり、古い表現だと思う。国が目指す、地域コミュニティと手を携えながら学校づくりをしていく、現在の開かれた学校づくりとは少しかけ離れていると思う。学校が地域を支えるのではなく、地域が共に学校を支えるという現在の学校づくりの流れから少し乖離している印象を受ける。

[吉川委員]

地域の人たちが学校に行って、学校を支えるなど、「地域の中の学校」という形となっている。また、学校だけではなく、できるだけ地域の活動の中に子どもたちが参加するという考えも重要だと思う。文部科学省が2015年問題で提案している地域学校協働体制というもの。知多市はそのあたりが言葉として少し遅れているのではないか。学校支援ボランティアのような活動は行っているが、実践としてはまだ弱い部分もある。

[入江副会長]

地域の中の学校であり、学校が地域を作るという面もあるということだろうか。10年後を見据えた総合計画なので、そういった表現を取り入れたらよいかと思う。そうしてくると、重点戦略のひとつづくりのところの②の書きぶりを少し変えるということか。

[吉川委員]

「地域の教育力を高める」という言葉があるといいのではないか。

[野尻委員]

そういう言葉があると、「ひとづくり」という言葉が腑に落ちる。「つくり」という表現が今まで気になって、「育つ」のではないのかと思っていたが、今の地域創生の話の流れを理解したので、腑に落ちた。

[西尾委員]

先生の働き方改革の流れの中で、手間のかかる学校外活動の時間が減っている。よって、地域で子どもを育てるという流れ、地域の中で子どもに何か教えることができる人の活躍する場があっても良い。そういったものがないと、学校に全て負担が行くので、先生の働き方改革のために、地域の中で子どもに何か教えられるように地域力をつける必要があるのではないだろうか。

## 【松本委員（にぎわいづくり）のグループ発言骨子】

[松本委員]

知多市における「にぎわいづくり」と言ったときに、事務局案の5本の政策で十分と考えるか意見を聞きたい。

[久野委員]

前回の審議会で、総人口の減少が避けられない中で、街中など固定の場所でのにぎわいについて議論することも重要ではあるが、ネットを通じて、または技術を活用して、どれぐらい交流があったか、縁を結んだり会話をしたりというようなことを含めてにぎわいと捉えても良いのではないかという話をした。一方で、このことは「あんしんづくり」や「ひとづくり」に近いかもしれず、現状のにぎわいづくりは物理的なにぎわいというところで整理されているのではないかと考えて拝見していた。

[松本委員]

今回の審議会では、人々が集いながら、面と向かって交流を深める場ということで、物理的なにぎわいについて検討すれば良いと考える。名古屋市の栄や名駅のようなにぎわいを知多市でつくろうとすると大変だと思うが、知多らしいにぎわいといったときに、事務局案の5本の政策で十分か、ということだと思う。

[長倉委員]

朝倉駅周辺整備が目前に予定されており、それに伴うにぎわいはイメージできる。

[松本委員]

それは①の「にぎわいの拠点づくり」で朝倉駅の再整備に伴う箱からスタートしたにぎわいであり、従来の手法でのにぎわいづくりだと思うが、産業が発達しており、人口も多いので、それはそれで良く、当然進めていただきたいと思う。

その場合には、ネットワークが重要であると思う。せつかくにぎわいの拠点を作るのであれば、そこに集める交通手段が必要。皆が車で来たら渋滞でたいへんな混雑になると思うが、そうではなく、公共交通で来てもらえればにぎわいに繋がると思うので、上手くやっていく必要がある。

私が気にかかっていることとして、イトーヨーカドー周辺のにぎわいはどうか。市民は今のままで良いと考えているか。

[長倉委員]

そこで物足りないと考える市民はイオンに出かけたりしているが、そうでない市民はイトーヨーカドーで買物をして、そこで期日前投票をしたりしていると思う。以前の審議会でも、イオンのような大きい施設が欲しいという意見もあるものの、道路渋滞が予想されたり、静かさが失われるのではないかと、との意見もあり、行政がどこを目指していくか、というと、それが「ちょうどいいまち」だと思う。

[松本委員]

今のイトーヨーカドープラスアルファぐらいの規模で、もう少し人々が集まる場所ができて良いのではないかという印象である。

[久野委員]

イトーヨーカドーのフードコートは空きが出ている状態であり、10年前と比較すると、平日の日中のお客さんが少なくなっている気がする。かといって、そこにお洒落なカフェができたからそこに行くか、というと、そうではなく、日用品を買いに行く、という感じ。また、イトーヨーカドーも比較的早くからお届けサービスなども実施しているが、これまでイトーヨーカドーで購入していたものをインターネットを通して購入するなど、市民の消費行動自体も、ここ5年、10年で変化してきたと思う。

[松本委員]

商業と違う機能をプラスアルファしながら、人が集う仕組み、それに対するニーズはないか。イトーヨーカドー周辺は人が集まりやすく、良い場所であると思う。商業だけではなく、スタートアップや交流の場、お稽古ごと、生涯学習、健康づくりの場にしても良いのではないか。

[竹内（栄）委員]

イトーヨーカドーの主なターゲット客層は高齢者である。高齢者でにぎわうのは良いが、購買にはあまり繋がっていない。高齢者が、コミュニティバスに乗ってイトーヨーカドーに来て、空調の効いた良い空間でくつろぎ、またバスに乗って帰る、というような状況だと思う。

周辺に重点的に店舗を建設することとし、住宅の建築を制限するなどすると良いのではないか。

[松本委員]

高齢者が目的もなくイトーヨーカドーに来て帰ってしまうのであれば、目的を作るために様々な仕掛けをすると良いのではないか。

知多市の中高生は普段、どこで買物しているのか。

[久野委員]

イオンなどに出かけていくのではないか。

[長倉委員]

親が連れていくことが多く、名古屋や東京に行くこともあると思う。

竹内（栄）委員がおっしゃったように、行き場のない高齢者が半日イトーヨーカドーなどで過ごしている姿は、求めている姿ではないと思う。知多市は高齢化率が高いが、元気な高齢者も多い。外に出て、いろいろなことに取り組み、ネットワークもたくさん作っていただき、孤立させないための取組が重要だと思う。

[松本委員]

イトーヨーカドー周辺には、高齢者が集まってこられ、近くに病院もある良い場所であり、活用していくべきだと思う。多世代間の交流が深まるような仕組みがあると良いのではないか。

[竹内（徳）委員]

事務局案の「にぎわいの拠点づくり」は、朝倉駅周辺整備だけのように見えるが、それで良いのか。どの地域を拠点としていくのかが見えていない。

[松本委員]

にぎわいの拠点として、朝倉駅周辺の他にどのような地域が考えられるか。

[竹内（栄）委員]

つつじが丘の朝倉団地の再整備が考えられるのではないか。例えば、朝倉駅からモノレールを通して、朝倉団地を回遊させ、また駅に戻らせるようなことも考えることができる。

[長倉委員]

朝倉駅周辺、イトーヨーカドー周辺、朝倉団地周辺を三角地帯とすると、徒歩で30分以内だと思う。モノレールの整備が難しいとしても、健康づくりで回れるような大きい歩道を整備することは可能で、その中で住宅ゾーン、にぎわいゾーン、緑のゾーンなど、ゾーン分けすると良いのではないか。

[竹内（栄）委員]

朝倉団地の中心に遊歩道が整備されているが、途切れている。そのような歩道が駅まで続いていると良く、佐布里のパークロードのように繋がると、歩いていて面白いのではないか。

[水内委員]

別の視点で、縮退していく先のハード、システムの作り方に関する議論が必要だと思う。「ひとづくり」にも関わってくるが、これほど自然が豊かで土地が余りつつある環境にあるのであれば、コミュニティガーデンのようなものを促す仕組みづくり、アグリツーリズムのように自然を豊かに味わいながら観光する中に市民ライターが入ってくることができる仕組みづくりをすることも含め、人がわんさか集ってお金がどんどん生まれることではない、違うベクトルでコトを起こしていくための最小限の投資と仕組みづくりが必要ではないか。

例えば、空き家について言えば、ドイツでは空き家バンクではなく、空き家をコミュニティの方と一緒にアートスペースに変えていき、文化度を高めていき、その土地自体の価値が上がっていき、また人が入ってくるという好循環を生むという事例がある。ハードに過度に頼りすぎないにぎわいづくりが必要だと思う。

また、コンパクトシティと言われているような、移動の助けが必要な方々がきちんとアクセスできる環境をつくり、皆の場所に出て来ることができるようなネットワーク環境を作ることも重要だと思う。それだけではなく、自らの力で移動することで買物にも出かけることができ、歩くことで健康にも

なり、地域の商業も活性化する、という好循環を生む起点となるようなモビリティがどのような場所に必要なのか、という議論が必要ではないか。

[松本委員]

私も、アグリツーリズム、地域でとれたものを小さな拠点で売りながら皆で集まるようなことができると良いと思ったが、そういった視点が足りないのではないか。国では「小さな拠点」などとよく言われているが、そういうものが「知多らしさ」になると思う。駅を再整備していく中で、コンパクト化をめざす、その中で3極の空間を少しテコ入れすることに加え、水内委員がおっしゃったようなコミュニティガーデン、アグリツーリズム、空き家の活用などの両方が示されると良い。

[久野委員]

生み出す側、提供する側と消費する側が分断されておらず、どちらの側にも行ったり来たりすることができることが重要だと思う。消費力が減少していく中で、稼ぎを生みながら消費もする、消費者の感性を活かしながら提供する側に回るような、小商いのようなもので、今日はここで市を出す、明日は向こうの市に行く、というように、流動性を高められないか。一人2役、3役を果たせる未来イメージが良いと思う。

[松本委員]

そのためには場が必要ではないか。

[久野委員]

その場が固定されている方が良い場合もあれば、小さなコミュニティ、小さなにぎわいとして、いろいろな場所で気軽に行う方が良い場合もあり、過度にハードに頼らないということも、そのようなイメージだと思う。

[松本委員]

空き家のちょっとした場所を変えていたり、公共交通のアクセスの良いところに戦略的に作るのも良いと思う。

[久野委員]

公的なものもあれば、民間の家開きのような形のものもあり、それがマップになっているようなイメージが良いと思う。

[竹内（栄）委員]

マッチングしてくれる組織があれば良いのではないか。奈良県の今井町では、空き家を改造してショップを運営している若い女性があり、大阪から移住するために、今井町の中のマッチングしてくれるNPOに相談し、建築家を紹介してくれたとのこと。農業と商業、空き家と不動産会社を繋ぐなど、マッチングしてくれる組織が重要だと思う。

## 【中間全体共有】

[吉村会長]

30分ほど経過しましたので、前半の議論の内容を、全体でシェアさせていただければと思います。

最初に、私のグループの、「あんしんづくり」の議論についてのお話をさせてください。

安心づくりの進め方をどう考えるかということがあり、分野別計画の5ページに、既存の組織のあり方について検討するという話がかかれているのですが、既存のコミュニティ単位より、自治会・町内会単位で安心づくりを進めていくのか、あるいは、未来を考えた場合、それがどこまで機能するか、改めて考える必要があると思います。

いろいろな人たちを繋ぐことができる人が必要不可欠ですが、誰がそれを担えるのかも合わせて考えないといけません。

福祉の分野だと、どちらかというと専門職に、というところがあると思いますが、なかなかそうもいかない場合には、地区単位で身近に相談できる人からいろいろな人に繋いでいくという形もあるのではないかという意見がありました。

「居場所づくり」、「場づくり」の話は他でも議論があって、「ひとづくり」でも関係しますし、「あんしんづくり」、「にぎわいづくり」でも関係すると思います。そういう居場所を作っていくつつ、働く場の中で、どのようなリソースを活用しながらやっていくのが課題ではないかと思います。

例えば、障がい者の雇用に関しても、障がい者だからというよりも、それぞれの個性、可能性を活かしながらやっていく仕事の作り方もあるのではないかという議論がありました。

1つの例として、電球を替える時など、すべて市役所や社協に電話して解決できるのかということ、人口が減っていく中、あるいは、共働きが増える等、働き方、暮らし方すべてが変わっていく中だと、そういうわけにいかなくなってくることを前提にして、どうやっていくのが課題だと思います。

いずれにしても、Win-Winの関係で、いろいろなリソースをうまく重ね合わせて、仕掛けとしてどうやっていくかが大事ですが、単に、仕組みをつくり、体制を整備しますというだけではイメージがつかみにくいので、もう一步踏み込んだ方がいいのか、より未来のイメージ像を作った方がいいのか、という議論があったように思います。

[入江副会長]

学びは受け身ではなく、主体的であるべきですが、そのような表現が分野別計画にはありません。また、分野別計画の学校教育と絡めた議論もありましたが、すごく限定的な書き方になっており、他の分野と重なっていないことに大変疑問を感じました。例えば、子どもの教育は学校で学ぶことだけではなく、繋がりなどに関わる学びや育ちも含まれていると思いますが、そういった記述がされていません。さらに、知多市の自然の中でのびのびと過ごす子どもについての言及もされておらず、知多の教育に対する姿勢がよく出た大変古い書きぶりになっているという印象を持ったという意見もありました。そもそも、子どもは権利を持っており、尊重されるべきであるという前提に立つべきではないでしょうか。

地域が学校を支え、学校が地域を支えるという相互性が重要という意見もありました。また、子どもを主語としている表現があってもよいと思います。

重点戦略間の繋がりを示すイメージ図について、複雑だという意見もありました。また、重点戦略の中でも重点度合いが異なっていることに違和感があり、理由を知りたいという意見もありました。

分野別計画「04文化」の(1)で「歴史や伝統文化を適切に保存し」の「適切に」の意味がよくわからないという意見もありました。

このグループでは教育に関してたくさんの意見があり、「地域で子どもを育てる」や「地域の教育力を高める」といった表現があると、「ひとつづくり」という言葉が腑に落ちるのではないかといい意見もありました。地域の行事に子どもがなかなか参加できない状況や先生の働き方改革があり様々な制限もありますが、地域に住んでいる方が地域の中で子どもを育てていくということが分かるような表現があってもよいのではないかと思います。

[松本委員]

資料1に「にぎわいづくり」として5本立っていますが、これで十分かどうかという視点で議論を行いました。

ここでいう「にぎわい」は、いわゆる人が集まってくる賑わいとは違う賑わいの形が今後はあるのではないかといい意見があり、例えば、SNSを使った賑わいでは、世界と交流ができますが、ひとまずそれは置いておいて、物理的なこの5項目でいいか、ということで議論をいただきました。

大きく2本ありました。

従来型の「にぎわいづくり」ということでは、「朝倉駅の拠点化、再整備」があり、これは非常に重要だということでした。

一方で、朝倉駅だけで終わりではなくて、これを全市的に拡大しないといけないという意見がありました。そのためには、もう少し、朝倉駅から広がりを持たせることが必要になります。駅周辺には、イトーヨーカドー、つつじが丘団地がありますが。この3つをトライアングルで考えると、そこは徒歩圏で、うまく徒歩空間で繋げば、すごくいい賑わいの空間ができるのではないかといいことになりました。

今、イトーヨーカドーは現実的に、高齢者の方々が集まっているので、ここを高齢者の方の交流の場、あるいは多世代の方が交流する場に機能転換していこう、つつじが丘団地については、大きく再生して魅力を向上していこう、そうすれば知多市全体の魅力が上がるのではないかといいのが1つ目の意見でした。

とは言いながら、人口減少、財政難の中で、投資をしながらどんどん収益をあげていくビジネスモデルは難しいので、郊外を含めた賑わいをどうするか考えた時に、「コミュニティガーデン」「アグリツーリズム」「空き家再生」など、コミュニティベースの賑わいづくりもやっていかないといいけないでしょう。その時に大事なものは、提供と消費を循環させることです。ある時は提供者になり、ある時は消費者に代わっていく、それを回すサイクルを作らないといけないし、その時には、場を作っていく必要があります。行政が戦略的に作ることも必要ですが、自然発生的にできていく両輪でやっていくことが大事だし、なにより、消費と提供のマッチングの仕組みを作っていく必要があるのではないかといい話がありました。

[吉村会長]

ありがとうございました。今、松本委員に整理していただいたことは、第1回、第2回で、高山委員から始まった、子育て等を色々な地域にある自然環境を生かしながらやっていく、といった話を転換して見たら同じことになったという気がします。そういった部分は、委員の皆さまの共通認識としてあると思うのですが、それが、この文章の中からは感じ取りにくいので、今後整理していく中で検討していく課

題だと思えます。

繋がりイメージが、空間イメージを含めて伝わってくると、より分かりやすくなると思えます。また、それぞれのテーブルで意見交換をお願いします。

### 【吉村会長（あんしんづくり）のグループ発言骨子】

[吉村会長]

耕作放棄地を利用して何か行ったり、公民館とコミュニティセンターなど、いろいろな場所がうまく繋がりながら、そこに個々の人が住んでいる中で、上手く、やわらかく、日常の延長上で何かできるまちができると良いと考えた。

他のグループの議論を踏まえて、意見ををお願いしたい。

[河村委員]

教育分野について、子どもを主語とした表現、子どもの権利についての意見についてはそのとおりで思った。

学校は教えるだけでなく、引き出す場である。地域の公共空間であり、大きな地域資源の一つである。子どもたちが学ぶ場だけではなく、地域の公共の場として、例えば、地域住民の方の力を借りながら、働き方改革に繋げていく。そのためにはまず情報が集まらないと仕掛けられないので、雇用や産業が生まれてくるとそれも賑わいになる。そこで子どもたちが大人の姿、地域活動を見て学ぶ。

単なる学校教育でない学びの場、教えの場として、総合計画に思いや理念が整理するとよい。

[吉村会長]

障がいのある人が希望する生き方ができるように支援すると書いてあるが、地域福祉や高齢者福祉など、今の書きぶりはどう思うか。

[河村委員]

出口支援と定着支援が弱い。

企業を誘致して働く場を設けても、若者が知多市で働きたいと思うかは別である。

知多市で働こうとするならば、障がい者や引きこもりの若者などの一次支援を継続しながら、働き続けることができる仕組みを、行政だけでなく地域の役割の一つとして構築できなければ、生活困窮者や障がい者の自立支援をしていくことは難しいのではないかと。相談件数は増えるものの、実務として地域と繋がることに至っていない。

就労支援の事業施策をしっかりと打ち出す、個人ごとに支援プログラムを検討し、徹底的に支援することで、他にも波及していくとよい。

[吉村会長]

高山委員の希望を実現するためにどのようなことが求められるか。

[高山委員]

困っている人に直ぐに手をさしのべるのは、「すぐやる課」のように、行政だからできたこと。NPOがすぐにできると良い。

福祉系で困っている人は、当事者同士の助け合いの方が上手くいく。当事者から支援者をみると分かっていないとよく言われる。障がい者同士の方が理解でき、支援できるところがある。

[市野委員]

地域福祉活動の推進の中に、社会福祉協議会や民政委員と連携し、とあるが、NPOが入っていない。

実際にNPOが携わり、就労支援や定着支援を始めている。NPOの活動を取り上げてほしい。

高齢者福祉の介護保険事業計画でいくら言っても認められないのが、知多北部広域連合で進める支援パッケージのうち、箱物整備は取り上げられるが、福祉の担い手育成が計画に挙がっていない。

知多北部広域連合ではなく、知多市は担い手育成に取り組むことを取り上げてほしい。福祉の担い手育成を明言化してほしい。

[吉村会長]

先ほどの議論でもあったが健康づくりに関しての意見はどうか。

[生田委員]

自分に合ったスポーツとあるが、その前に、根本的な体づくりを考えるべき。

自分に合った健康づくりに加え、さらにスポーツをするという方が、スポーツをしている感じがする。

スポーツ施設を整備したからといっても、皆が利用して健康になるわけではない。

病院に関して、西知多総合病院が使いやすい病院になっていない。西知多総合病院に搬送されたが、対応する診療科がなく、他に回されている間に症状が悪化したという方もいる。

統合しても不十分な状況で、安心して受診できない。新舞子方面ならば常滑市民病院へ行こうかなる。重症度の高い人が安心して受診できる環境が欲しい。健康に関してはスポーツを推すだけでなく根本的なところから考えてほしい。

[峯神委員]

スポーツで健康になるひとばかりではない。心身ともに健康になるには、心の健康も大切である。

自分の好きなことを続けることができることが重要。

最近残念に思うことで、知多市の小学校の部活がどんどんなくなるという話がある。部活がなくなってしまうと大会に出たいから頑張るといったことや、後輩に教えるといったことがなくなってしまうので、少しもったいないという思いがある。先生の働き方改革もあるので仕方がないことだとは思いますが、先生たち以外で教える側に回りたいという人もいると思うのでそういう人たちを上手く使えるといいのではないかと思う。

[生田委員]

小学校では現状、サッカーなどの部活動をやっていない。球技大会を開催しても、直前に参加者を募るようである。

最も体が動かせる年代の子どもたちの受け皿が減ったのは残念である。

部活動を経験して今があるので、学校の先生の負担をあげずにできる、子どもたちがお金をかけずにできる方法はなくさないでほしい。

お金を払って習い事をするということになると、経済的に苦しい家庭や共働きの家庭では送迎までして対応することができない。

[吉村会長]

サッカーや野球を指導する人は民間の人が入っても良い。そうすることで、学校が地域に開かれるのではないかと。

[生田委員]

学校教育課が担当だと思うが、課の枠をこえて、健康やスポーツの担当課が頑張れば実現できるのではないかと。

[市野委員]

子どもたちが興味を持つきっかけが少ない。

コミュニティスクールという話を聞いたが、みんなが繋がって子育てを進めることが望ましい。

[吉村会長]

子育てに関わる経験を持っている方が年齢にかかわらず、得意な分野を活かしながら、トータルとして負担を軽減できると良い。

[生田委員]

軽度の障がい者に対して監督の権限を与えるということも考えられる。

[高山委員]

スポーツ経験者がいれば可能かもしれない。

[市野委員]

恐らく、皆さんが自分の関心にあわせて、スポーツや防災などに関わり、そこで仲間づくりができることが大切であるということが記述されているとよい。

先ほどのコーディネーターではないが、市民が繋がるきっかけづくりになる。

一方、計画が主体となっていけないのは、交通、消防、救急などが同じレベルで描かれているので、ややこしい。

「09消防・救急」の火災予防の啓発で、女性消防クラブは、地域によってあるところとないところがあるのではないかと。これを記載するのはいかがだろうか。存在しているのかわからない。精査して記

述した方が良い。

[吉村会長]

組織や事業をどのような体制で動かしていくかをもう少しきちんと書いていく必要がある。  
機会を作りますとあっても、誰がどうやって行うのか不明なところがある。

[河村委員]

皆さんの言うとおりで。人は助けたいニーズがある。困っている人を助けてあげたい気持ちを持っている市民が活躍する場がないと、地域に愛着を抱くことなく離れていってしまうのではないかと。

自分たちの経験を還元する場が必要である。先生がいないと活動が縮小することもわかるし、所属していなければ教えられない。枠組みで議論するのであれば、枠が重なる大きな区切りの中で取り組むことが、歴史や伝統を継承していくことに繋がるのではないかと。

参加する機会は多いと思うが、皆知らない。それを周知していくことが重要である。

[吉村会長]

移動手段をどうしていくかについて意見をいただきたい。

[生田委員]

乗合交通というのはどういうものか。

[吉村会長]

後ほど確認したい。

市民移動手段は課題であるが、それほど盛り込まれていない。

[生田委員]

「市内のバスについて知り」ということはどういうことなのか。

[河村委員]

バス路線の認知が進んでいないということを言いたいのではないかと。

高齢者がコミュニティバスに乗車する際にステップになかなか昇れず、時間がかかると、乗客などの目が気になり、利用しなくなるのではないかと。

バスのステップを、サロンでやっている踏み台昇降に見立てると、楽しくなり、バスに乗って出かけるようになるのではないかと。

## 【入江副会長のグループ発言骨子】

[片山委員]

「民間との両輪」というのが、ひとつづくりのポイントとなると思う。行政だけが引っ張っていくものではないだろうと思う。実際の現場では、行政のルールやあり方だけではやっていけないと思う。「対ひと」であることを忘れてはいけないと思っている。行政・地域が皆で取り組む姿勢が大事だと思う。

[入江副会長]

地方政府は住民の付託を受けるもの。上下関係が逆転することはない。住民自身がその地域の課題を解決するというのが、住民自治の観点からも望ましいと言われることである。皆でというのは、公共性という意味でいうと、行政だけが公共性を担うものではない。地域には、色々な主体があるので、それぞれが関わりを持ちながら動いていく。最初のきっかけは行政による整理が重要だと思うが、一旦動き始めた後は市民に任せるべきである。

[片山委員]

ひとつづくりについて、行政が市民を疑っているような感じの印象を受けた。行政の考える落とし所に誘導されているような気がする。行政と市民との信頼関係が重要だと思う。

[入江副会長]

従来型の総合計画を作っていくときも同じことが言えたと思う。行政の引いた議論のルールの上をなぞっていくような感じがしていた。ただ、知多市の今後10年を考えると、そういった作り方ではいけないというご指摘と捉えた。

[西尾委員]

市民が自主的な活動をやっていく時に、市の方法論とぶつかってしまうことがある。市の縛りの中でやることと、市民が自分の中でやっていることでは、後者のほうが賑わっている。実際問題として、市から「こういった制限があります」と言われてしまったら、どうしても市のあり方に合わせてしまうし、市から制限を受けていると言われると、議論が終わってしまう。縛りがなかったら、もっと自由な活動ができるのと思ってしまう。例えば、助成金の使い道でイベント後の懇親会に使うのは不可という縛りがあるが、そういった場で色々なアイデアや反省点が出るのだから、大事だと思ってしまう。

[入江副会長]

コミュニティ施策の難しい点だと思う。本来コミュニティ活動は市民が自主的に行うものであるが、行政が何か方向性をもたせた施策を打とうとするところに根本的な矛盾をはらんでいると思った。一方で、助成金は税金から来るので、使い道については透明性が必要でという議論もあるので難しい話だとも感じる。

[吉川委員]

先程、地域での子どもの活動についての議論があったが、今は子どもが忙しくなっていることにも注意が必要である。スポーツをやっていると、土日は全て参加できなくなってしまうため、参加を促す工夫が必要かもしれない。また、知多市は子どもが少なくなっているため、子ども会が縮小してき

ている。子どもの数の減少以外にも、親が自分の当番を嫌がってしまうことも原因である。

[片山委員]

これは、働き方改革にも繋がってくる話で、自分たちがこの地域で生きていくということ、どれだけ真剣に考えているのかということだと思う。自分のライフプランについて、家族のあり方について考えるということだと思う。家庭によって、意識や考え方の差があるものだと思う。子どもは地域に参加すべきものか、それとも自由にすべきものかというところについては、子どもに聞いてみたいと思う。

[入江副会長]

働き方の形が多様化してきている。いろいろな家族がある中で、いかに子どもを地域全体で育てるかを考える必要がある。その中で、子どもの主体性や権利などを守る必要があると思う。

[片山委員]

差異が小さくなっていくという観点だけではなく、色々な観点から考えていくべきものだと思う。

[入江副会長]

多様性がひとつづくりの⑤に出てきているが、多様性と子育ても密接に関係してくると思う。

[片山委員]

実際に多様性を認め合うのは非常に難しい。いろいろな人の考え方や行動、国籍、性別等を本当に認めるのは大きな摩擦がある。

[入江副会長]

市民の行動に結びつくような提言というと、確かに難しい。

[吉川委員]

多様性については、すぐに結果がでるものではなく、特にひとつづくりは長い周期で考える必要があると思う。具体的で小さなことをこの文章の中に取り上げるのは難しいのではないかな。

[富田委員]

どんな人の声が届くとよいと考える。例えば障がいを持っている少数だと声が届きにくいとかそういうことがあるかもしれないが、そういった声や一般市民の声も届くといいと思う。一人ひとりの声が届きやすいといいと思う。

[入江副会長]

一人ひとりの声が届きやすいような社会ということか。

細かいことであるが、声が届くというのはどこに届いて、誰が受け止めて、どこに返すのか。

[富田委員]

声を発して、受け止めてもらい、そこに寄り添う人がいないと成り立たない。一人ひとりが大事にされ、誰もが繋がっているということが大切であると思う。

[片山委員]

言ったことが結果として残る、要望が通ってほしいということではない。

[入江副会長]

一人ひとりの声が社会で共有できるとよいということだろうか。

状況を知り、いろんな困っている人がいて、小さな声を拾っていくということが大切だと思う。そういったことがここに表現として入っているほうがよい。

[富田委員]

そういった状況が多様性を認め合うということだと思う。

[近藤委員]

多数の人達が多様性の重要性を理解するためにはどのようにしたら良いのか。リーダーになる人もいるし、ならない人もいる。ならない人のほうが多いだろう。ならない人の多様性をどのように受け止めるかが重要。学びや人間形成というのは、子どもが中心になってくるのかもしれないが、生涯続くものである。それぞれのライフステージにあった支援ができるとよい。

また、新しい創業像として緩やかな創業像が挙げられる。売上を上げることを目的とするのではなく、自分のやりたいことを自分の隙間時間を使ってビジネスにしていこうというものである。子育てが終わった女性の方やシニア層が、自分の趣味の延長で始めることもある。若者の創業支援だけではなく、色々な人のやりたいことを実現できるようにするというのが大事ではないだろうか。

[片山委員]

自分の人生は自分が主役で、それが縁の下の力持ちであってもよい。いかに自分の人生を自分らしく生きることができるかが大事。だから、若者の居場所づくりや夢や目標に向かってチャレンジするということが大事なのだろう。

[入江副会長]

次代を担う、といった表現だと確かに強い人に焦点が当たっている印象がある。また、人づくりの中で子どもや若者が最初にくることは構わないが、中高年の再チャレンジも大事だと思う。ロストジェネレーションについて、社会のルールから外れた人達をどこで拾うのかという考えも大事。どのように再チャレンジのできる世の中にするか、声を拾っていくかということを考えたい。

[西尾委員]

分野別「03 地域市民活動」(3) 最初の文章について、因果関係が逆ではないだろうか。「地域活動などに積極的に参加し、地域の多様な人達とのつながりを持ちます」とあるが、「地域の多様な人達との繋がりを持つため、地域活動などに積極的に参加します」ということだと思ふ。

[片山委員]

分野別「01 子ども・若者」(2) ①で「切れ目のない子育て支援」とあるが、幼児教育と保育、障がい児支援が別れてしまっている。結局、行政としては切れ目があるといえる。

[入江副会長]

各課の所管ごとに記述してしまうと、このようになるのだろう。これは、市民からすると変な切れ目に思ふかもしれない。従来型ではないということで、重点戦略は分野横断的に書いてあるが、分野別はやはりそのように書けていないということだろう。

[富田委員]

「次代の担い手」という表現がやはり気になる。担い手というと、選ばれた特別な人のように捉えてしまう。むしろ、どんな人でも活躍できる社会が望ましいと思ふ。そうでないと、地域活動が他人事になってしまう。

## 【松本委員のグループ発言骨子】

[松本委員]

取りまとめ方について、他のグループでお話があったが、それも含めてご意見頂きたい。資料3の「重点戦略のつながり（イメージ）」の図は分かりにくいので、3つの柱ごとに分けた方が良いと思う。

[久野委員]

前回審議会で示された重点戦略のイメージ図について、それぞれの柱の中の施策と他の柱の施策の繋がりが途切れているとの前回審議会での指摘を受けて、事務局がたくさんの線を繋げて示したのではないかと思う。

[水内委員]

施策同士の具体的な関係を可視化し、複雑なものを分かりやすくすることが必要だと思う。

[久野委員]

空間的に整理する方法もあり、ある一人のライフステージに沿って整理する方法もあるのではないかと思う。

[水内委員]

施策ごとが関連し、その結果「ひとづくり」「あんしんづくり」「にぎわいづくり」が達成されるといふ構造的な関係性が見えると良いのではないか。

[松本委員]

今の資料からは、重点戦略のそれぞれの柱の中で、施策を探そうとしても探すことができない。「にぎわいづくり」の「にぎわいの拠点づくり」で言うと、それに紐付く施策を探そうとしても、施策が示されておらず、分野別にしか示されていない。横断的に取り組んでいくとしながら、結局所管別に施策を並べている。

[久野委員]

創業支援について、従来型の記載にとどまっている。小商い、消費と提供の循環などのニュアンスが削られていることが残念に思う。

[松本委員]

「にぎわいづくり」の5本に加え、人口減少時代に合ったコミュニティベースのにぎわいについて記載することが必要であると思う。場合によっては、これが「④新たなチャレンジを創出するまちづくり」に組み込まれる可能性もあるが、その下に紐付く施策、また、分野別に示されていないが必要と考える施策はあるか。

[久野委員]

起業支援施策を知多市単独で行っていくことは難しいという実感がある。市内のみをマーケットにして成り立つ事業がどの程度あるのかと考えると、広域での取組を意識した方が良いのではないかと。知多市の特徴を生かすことと、知多半島などの広域での取組との両方を意識した方が良いと思う。

[竹内（栄）委員]

重点戦略と分野別計画の内容が整合していない。分野別計画はほとんど行政の書き方であり、当たり前前のことが記載してある。

[松本委員]

例えば、下水道処理の仕事をすると川の水、海の水がきれいになり、環境美化にも繋がるなど、所管部署の職員に、自分たちの仕事がどこに繋がっているかを意識してもらうことが重要だと思う。

[竹内（徳）委員]

先日、岡田街並みフェスティバルを実施したが、業者に委託せず、自分たちで全て準備し、大変な労力が必要であった。人は多く来ていただいて良かったが、駐車場がないなど、多くの問題もあった。

[久野委員]

実施する側は大変だったと思うが、その大変なことにも意味があると思う。人との繋がりづくりにもなったのではないかと。

[竹内（徳）委員]

人脈ができ、次の開催にも繋がり、「ひとづくり」に資するものだと思う。

[久野委員]

単発で人がにぎわったことは残っていかないと、地域で力を付けたことや繋がりができたことは、残っていくのではないかと。

[竹内（徳）委員]

仕掛けづくり、それをサポートする行政、キーパーソンを育てていくことが重要だと思う。

[水内委員]

市民と行政とが垣根なく支え合える仕組みづくりが今後重要であると思う。例えば、お祭りの際に渋滞し、駐車場が不足するのであれば、日頃から市の中でマッチングサイトのように、空き駐車場の情報を把握しておき、お祭りの時だけ有償で貸していただくような仕組みができていれば、渋滞が減るのではないかと。

分野別計画の資料で気にかかることとして、「市が取り組むこと」、「市民・地域等が取り組むこと」とはっきりとした分け方をしているが、従来的に見え、市民がすべきことを押し付けられているよう

に見える。はっきり分けてしまうと、市民と行政とが垣根なく協働していくことの足かせになりかねない。多様な人が包摂されることを目指しているのであれば、表現に配慮すべきではないか。

[竹内（栄）委員]

市民もこれまで、行政に頼りすぎてきたと思う。その意識を変えなければ、まちが立ち行かなくなるということを明記すべきではないか。

[久野委員]

「取り組むこと」という表現が、やるべきことのように見えるが、一人ひとりの個性や得意分野を活かして、このような取り組み方もある、このような関わり方もある、という例示のような書き方にすると良いのではないか。

[松本委員]

「にぎわいづくり」では、公共空間の活用が重要であると考えている。公園、道路空間、ちょっとした広場を使って、民間の方が経済活動を行えるようになってきている。そのような場を行政がつくり、民間の人が様々なアイデアでどんどん使えるようにできることが重要であると思うが、そうしたことが書ききれていない。市にそのような取組姿勢があるのか分からないが、知多市にそのような場はないか。

まちかどの空間、駅前の広場などを民間事業者などが自由に使えるようにできないか。その代わり、清掃はしっかり行ってもらい、年間貸付であれば維持管理も併せて行ってもらう、というようなことがあっても良いと思う。

[竹内（栄）委員]

市はこれまで、そうした取組を行ったことがない。

商工会では、5階建ての旧看護師宿舎の1階、2階に、無料で出店したい人を呼び、内装の改修費の補助をするけれども、プランニングはしてもらい、というようなことを仕掛けてはどうか、と提案したことがある。最近、色々なまちで古いところを活かしたり、大きな商売はできないが、小さな商売をしたい主婦などのために建物を改修し、活用していることからしても、旧看護師宿舎は、例えばパンを作ったり、クッキーを売ったりするにはちょうど良いのではないかと考えた。ただ、旧看護師宿舎は行政の財産であるため、許可されないと思う。耐震基準を満たしていないなど、そういったことが必ず出てくる。

空きスペースが活用される流れが起きれば、移転後使用されなくなる図書館など、他に空いている公共スペースも活用されていくのではないか。

[松本委員]

アイデアをもっと民間から取り入れた方が良いのではないか。

[長倉委員]

駅前の公園などを活用したい事業者は多くても、どこに依頼すれば良いか分からない、そこで事故

があったときの責任の所在はどうするのか、などの問題が出てくるので、きちんとした手続きをしていかないと場所を借りることができない、ということが現実としてあると思う。

[松本委員]

幸い、今は規制緩和され、使用契約を結ぶと公共空間が活用できるようになっており、例えば公園でビアガーデンを実施したり、河川敷でキャンプやバーベキューができるようになったり、どんどん広がりを見せており、知多市でもそのようになっていくと良いと思っている。

知多市で観光に活かせる魅力資源はあるか。

[竹内（徳）委員]

観光資源は、佐布里の梅、岡田の古い街並み、新舞子マリパークの3つしかないと言われることもあるが、実はそれ以外にもある。例えば、大興寺の四季ざくらなど。

[水内委員]

極端な例だが、雪が多い地方では雪おろし体験などを観光化することにより、市民の負担も軽減し、かつ雪に親しみたい人たちがやって来るといふ新しい観光資源を作ることができる。例えば、知多市では、市民活動が盛んであるため、市民活動を見てみたいという人に体験をしてもらうなど、体験型観光の視点が考えられる。

[竹内（徳）委員]

観光協会として少しずつ取り組んでおり、例えば、市内の10の寺を巡る十弘法参拝のルートを観光資源に繋げたり、大興寺での四季ざくら祭りの開催を支援している。他にも観光資源をうまく繋げていくための知恵が必要である。

[長倉委員]

市がペコロスフェアを実施しており、広報ちたでは、ペコロスを使った13の飲食店を紹介している。それらの店を周るスタンプラリーを実施したり、梅の季節には梅を、みかんの季節にはみかんを使った取組など、地域の人だけでなく、近隣の市町の人に向けてもPRできれば体験農業にも繋がっていくのではないかと。

[松本委員]

知多市では、農業は観光になりうるか。

[長倉委員]

十分なりうると思う。

[竹内（栄）委員]

商が縮小しつつあるので、商と農を繋げるマッチングが必要だと思う。

## 【後半全体共有】

[入江副会長]

「ひとづくり」については、行政が単独で市民を引っ張っていくものではないし、行政のルールだけで人が育っていくわけではありません。あくまでも市民主導の考え方が大事で、行政と市民との信頼関係が重要になってくると思います。

子どもに関する意見として、子ども会の話がありました。子どもも週末忙しいので、子ども会に入る数も少なくなってきたようです。コミュニティにおける子ども会の位置づけ等を考え直す必要があると思います。また、家族のあり方が多様化している中で、どのように生きていくのかはそれぞれのスタイルがあり、これが多様性を認めることに繋がるのではないのでしょうか。

多様性に関しては、実際に多様性を理解するのは難しく、すぐには結果が出ないものであり、それをどのように表現し、どのように市民の活動に繋げていくかは難しいといった意見もありました。また、一人ひとりの声が届きやすい地域づくりが大事であり、社会でそういった小さな声を共有できる仕組みがあるとよいと思います。

「担い手」という表現についても意見がありました。担い手やリーダーと書かれてしまうと、対象としている人は、強くて優秀な一部の人というイメージですが、この重点戦略で描きたいのは、誰しも一人ひとりが自分の人生の主役になればよいということではないのでしょうか。若者の創業支援だけではなく、人生のステージに応じた支援、例えば緩やかな創業・高齢者の創業・中高年の再チャレンジを後押しするというのはどうでしょうか。

分野別「01子ども・若者」(2)①に「切れ目のない子育て支援」とありますが、実際の書きぶりを見てみると、幼児教育と保育が切れていたり、障がい児支援が切れていたり切れ目があるのではないかと思います。所管別で、従来型ではどうしてもこのような書き方になってしまうが、切れ目がないというなら、大きなくくりで「切れ目のない子育て支援」とし、その中に幼児教育や保育、障がい児支援を入れた方がよいのではないのでしょうか。

[松本委員]

資料の作り方についてですが、資料1に「将来像、めざす姿、基本方針、重点戦略…」とまとめていただいており、重点戦略の「にぎわいづくり」のところで、少し足りないところがあると先ほど申し上げましたが、その中の、施策の落とし込みのところを見ますと、分野別計画は、従来型のセクション毎に分けられていて、各重点戦略に対して、どの施策が関与するのかが分からなくなっています。

逆に言うと、各部署の方々は、自分たちの分野別の計画を見ることはできるのですが、それが、どの重点戦略に繋がるかがわからない構造になっていて、従来と全く変わらず、今までの議論が反映されていないのではないかと感じました。

このような記載ではなく戦略毎に、分野毎の施策をぶつ切りにしてぶら下げる必要があるだろうという意見がまとまりました。

「にぎわいづくり」の中の「新たなしごとの場づくり」ということで、重点戦略を見ますと、いわゆる「新たなしごとの場づくり」というのは、工業用地の整備、企業誘致になってしまっており、起業を支援するような、あるいは空き時間、空きリソースを使ってちょっとした商売を行うようなことについては、全く対応ができていないので、是非、そういったところも入れてほしいです。

先ほど、「小さな賑わいの場」として、「コミュニティガーデン」「アグリツーリズム」の話もしましたが、そういった点も配慮するべきではないでしょうか。

ただ、その場合、市内だけを対象にしていたのでは限られてしまうので、もう少し広い視野で、広域の連携や場づくりを考えていかないといけないでしょうという意見がありました。

繰り返しになりますが、「にぎわいづくり」の中には、「小さな賑わいの場」、「郊外の賑わいの場」といったことも是非入れてください。

「にぎわいづくり」に限ったことではありませんが、今まで、市民は行政に頼りすぎていたので、まずはこの姿勢を変えていかないとはいけません。自分たちで作りに上げていくのだという姿勢になっていかなくてはなりません。これは、総計の前段に出てくるところ、あるいは全体に通じるところだと思いますが、まずはそこを明確にする必要があります。

今、様々なところで、賑わいを生むための公共空間の利活用が行われていますが、それが十分に書ききれないし、できる仕組みになっていないと感じます。行政も、せっかくいい公共空間がありながら、十分に活用できていない場面が多々あるので、使い方については、民間からアイデアを募るような姿勢を持っていいし、あるいは、最初からそこを使ってもらおうという姿勢でもいいと思います。

資料5において、「市が取り組むこと」、「市民・地域等が取り組むこと」とあり、「市が取り組むこと」はこれでいいのかもしれませんが、「市民・地域等が取り組むこと」については、マストのような感じがしてちょっとおせっかいな感じがします。

一例として、こんなこともやれますよということであればいいかもしれないし、市民が自ら考えて、こんなことがやれますよという方が望ましいと思うので、ここは書き方を気を付けていただいた方がいいと思います。

賑わいのところで、観光という視点からも話がありました。知多は観光資源が限られている一方で、体験型の観光の発掘は今後ありうるので、農業が一つの切り口になるだろうという話がありました。ペコロス、梅を使いながら、体験型の観光に繋げていき、さらには、農業と商をマッチングさせて、より発展した形での観光、あるいは、それが産業に繋がっていくかもしれないので、そういった繋がりを持っていくことが必要だという意見がありました。

何よりも、需要と供給、ニーズとシーズのマッチングの仕組みを作っていくことが必要だということでした。

[吉村会長]

ありがとうございました。

今、いただいた意見は、皆さんがそうありたいと思うことを発言されたのではないかと思います。

「健康・スポーツ」を切り口として、いくつか議論がありました。

心の健康の話を書いているのは良いのではないかと意見がありました。また、スポーツをしたから健康なのか、健康づくりの1つの手段としてスポーツをするのか、というスポーツと健康の繋がりについての議論がありました。

同時に、学校での部活動である、サッカー、野球、あるいは音楽などの活動がどんどん減っているという実情の中、どうやっていけばいいのかということもあります。

学校の先生方の働き方改革も、議論になっており、スポーツや部活動が大事だからやらなくてはいけな

いという話になると、うまくいかなくなると思います。部活動は大事ですが、それを担う人は、先生でなくてもいいかもしれません。地域に経験者、あるいはプロや引退した人など、指導ができる人がいれば協力してもらい、地域全体、知多市全体として取り組んでいくことができるのではないのでしょうか。

ただ単に、スポーツ施設を整備すればいいという話ではなく、地域の人々の力を活かしながら、それぞれの得意技や関心事項を引き出しながら、それをうまく重ね合わせて、スポーツに限らず、色々なことができるというと思います。

知多市内にいる色々な人たちの才能、スキル、関心事等をうまく重ね合わせながら、それは、市単位だったり、コミュニティ単位だったりすると思うのですが、それと、うまく物理的な空間を重ね合わせて地域づくりをしていくことが、これからの知多市がやっていくことなのではないかと思いました。

「健康・スポーツ」の議論でしたが、やろうとしていることはそれだけに限らないと思います。

もう1つは、ここに書かれている項目が、どこまで前提的に捉えられているかは、考えなくてはいけません。先ほども、町内会や子供会の話がありましたし、市野委員からは女性消防クラブの話もあったかと思いますが、今、組織が機能しているのか、これからもちゃんと機能していくのかどうかをちゃんと見定めておく必要があり、載せたら推進しますという話でもないと思います。

子ども会のあり方も現在とは別の形もあるかもしれないので、そのあたりは考えながら議論をする必要があるという話がありました。

病院等、他の施設についても、本当にそれが機能しているのか、課題があるのであれば、それを認識した上で書かないといけないという議論をしました。

もう1つ、松本委員にお聞きしたいのですが、「07地域公共交通」について、あまり議論できていないということもあるのですが、「普通自動車を使用した乗合交通など、柔軟性に優れた可憐な交通手段の導入を検討します」というのは、どういう意味合いになりますか。また、「市内のバスについて知り、乗車する機会を提供することで、地域公共交通に対する関心を高め、利用促進を図ります」という前段の部分は、知らないから知らせる必要があるのか、など補足をお願いします。

そもそも、動きにくくなった人が、コミュニティバスに乗ろうと言っても、現実的に乗りにくいし、乗るのが恥ずかしいと考えた場合には、介護予防等を含めて考えると、もっと前段階での促進の仕方があるのではないかと、という話もあったので、ご意見をいただきたいと思います。

[松本委員]

「普通自動車を利用した乗合交通」という記述が必要なかどうかはわかりませんが、いわゆるバス、ワゴン車ではなく、普通の乗用車を使った乗合交通という理解なので、タクシーでもいいと思います。10人～20人が乗れる大きなものではなく、乗用車の活用というイメージを持っていただければいいと思います。

今後、色々な形の乗合交通が出てくると思うので、そういった形に記述を直すとともに、そういったものが新たな交通手段として導入されるのだということではないかだと思います。

2点目は、多くの方々は、バスの乗り方を知らないと思います。バスが走っていることは知っていても、近くのバス停がどこなのか、料金はいくらか、どこへ行くのかを知らないで乗れないのです。まずは、バスの乗り方を知ってもらうことで、それが利用促進に繋がるだろうということです。

バスは不便ではなくて不安とよく言われます。分からないことだらけなので、足が遠のいていると思

ます。

地域公共交通に関していえば、「にぎわいづくり」においても、朝倉駅を起点として、先ほどの3点に地域公共交通が集まってきて、便利に来れるといういわゆるネットワークを作らなくてはいけないという意味がある一方で、今、お年寄りの免許返納後の生活が、大きな社会問題になっています。人口動向を調べてもらいたいと思いますが、知多市において、退職後、流出が増えているようであれば、老後の生活に不安を抱いていて、便利なところへ住み替えている可能性があるのです。そうではなく、老後も安心して暮らせませ、車がなくても日常生活が送れますという環境を作ってあげないといけないと思います。それが、いわゆる公共交通です。

ただし、ここでいう公共交通は、バスという形だけにとらわれずに、予約型のタクシーも含めた交通手段の提供ということになるので、それを公共交通の中に位置づけていただき、老後、免許返納後も安心して暮らせるように担保してもらいたいと思います。

### 【全体での意見交換】

[吉村会長]

ありがとうございました。

全体を通して、意見交換をしていきたいと思います。

大きな枠組みは皆さん同じ思いを持っていると思います。子どもについても、誰かが子どもを育てるだけではなく、子ども自身が育つという観点からも見ていく必要があるという指摘も、これまでの議論の中で、皆さんの共通認識としてあると思います。大きな方向性については、相対していないと思います。

どこまで詳細化していくかという話もあるかと思いますが、その上で、先ほど松本委員からお話のあった、重点戦略と分野別計画の繋ぎ方は、もう少し精査する必要があると思いますし、資料3の繋がり図のところをヒントにしながら、これから素案を作ることは知多市にとっても、大きなチャレンジだと思います。

今回は、入江副会長、松本委員とともに取り回しをしながら進めていますが、次回に向けて、事前にもう少し意見を聞きながら、整理をしていくことが大事だと思うので、確認しながら進めていきたいと思っています。

資料1の下に、施策という四角があって、この施策が何なのかについては、まだ今日議論されていませんし、KPIの話もありますが、ここをどのような形で見せていけばいいでしょうか。パッケージにしていこうという話はずっとしていますが、審議会の委員の皆さんにも、それが大事だということは共有できていると思いますので、どのような形で文章化していき、かつ、この計画を見て、すぐ伝わってくるのが大事だと思います。その中で、自分に何ができるのか、関わり方を見出して、やってみようと思えるかどうか大事なので、今日の意見を受けながら、事務局とも相談し、皆さんのお知恵もいただきながらやっていきたいと思っています。

最後に、全体を踏まえてご意見をいただきだと思いますが、いかがですか。

[入江副会長]

先ほどの議論を紹介したときに、重要な指摘が1つ抜けていました。

分野別計画03の、地域市民活動のところですが、「(3) 市民・地域等が取り組むこと」の最初の「・

地域活動などに積極的に参加し、地域の多様な人とのつながりを持ちます」という書きぶりについて、前後が逆ではないか、実際にコミュニティ活動をされている西尾委員からのご指摘がありました。

参加して繋がりを持つということが、原因結果になっているのか、ただ単に並列なのかということはありませんが、西尾委員の思いとしては、地域の多様な人との繋がりを持つために、地域活動に積極的に参加するというので、多様な人との繋がりを持つことが目的なので、書き方の前後が逆ではないかという指摘がありました。

そこに関して、先ほど吉村先生からもお話がありました、「市民・地域等が取り組むこと」という書きぶりが、ちょっと強いというイメージを私も持っており、原文のままだと、「つながりを持ちます」と断定的に言われているので、そこに対し、私もやってみようと市民の方が思えるかというところが、やや不安です。もう少し書きぶりを工夫した方がいいと思いました。

[松本委員]

先ほどのまとめ方について、私のグループで上下水道の話が出たのですが、「水道施設の老朽化対策・災害対策の推進」「水道事業の健全経営」など、すごく重要なことで、かつ、この部署の方はこれを一生懸命やられると思うのですが、ここで大事なものは、目的だと思います。何のために、これをやるのかという認識のためにも、戦略のどこにぶらさがっているかを位置づける方がいいと思います。

具体的に言いますと、例えば下水道整備では、下水道によって、排水がきれいになって、川もきれいになり、海もきれいになります。それが、観光に繋がる可能性もあるでしょう。当然、下水道処理がしっかりすれば、緑や花に囲まれた住環境づくりにも繋がると思いますし、災害に強く安全に暮らすことができるまちにも繋がってくると思います。

それを担当する人にとっても、自分たちの仕事が、市民の生活にこんなに繋がってくるのだということが見えてくると思いますので、施策を戦略の中に落とし込んでいくというまとめ方にさせていただいた方がいいと強くお願いしたいと思います。

ただし、従来の総計ではなくなるので、庁舎内での色んな反発はあるかもしれませんが、せっかくこういう検討の仕方をしたので、そこは是非挑戦していただきたいと思っています。

不足している点についても補足させてください。「梅香る私たちの緑園都市」と書いてあるのですが、緑の施策が少ないと思います。こういう書き方をするのであれば、緑をどうするのか、もっと明確に打ち出した方が、この総合計画を実現することに繋がっていくと思います。

「にぎわいづくり」については、住環境づくりと書かれていますが、住環境づくりの施策も少ない感じがしています。

将来像、戦略があれば、それにふさわしい施策を並べていただきたいと思います。

[吉村会長]

ありがとうございます。

先ほどの公共空間利活用について、そのように思っておりまして、上に書いてあるような将来像や目指す姿を実現するための何かはちゃんと位置付けていかないと、逆に、しなくてもいいという話になりかねないところがあると思います。

[水内委員]

様々な方からご指摘があったとおりでと思います。図化する、視覚化するということは、見栄えを調整することではなく、繋がりをきちんとする整理して把握するということだと思っています。吉村会長や皆さんが言われたとおり、施策ごとの関連を明記することが重要になります。関わる人が複雑になってくるとは思うのですが、それをいかに分かりやすくするかが視覚化の重要なところなので、見栄えよりも、仕組みや構造を、きちんと編集することが重要だと考えています。

[松本委員]

「にぎわいづくり」のところで、竹内（徳）委員が、実際ににぎわいづくりをやられた中で、言うことはやさしいが、実際にやることはなかなか難しいというお話をされたので、ご本人からそのあたりをご発言いただけたらと思います。

[竹内（徳）委員]

一昨日、岡田の街並み保存会とコミュニティという形で主催をし、第19回の街並みフェスティバルを開催しました。

これまでは、フリーマーケット主体で行っていたのですが、3年前から規模を拡大し、ステージイベント等、色んなことをやってまいりました。

ステージイベントについては、出演希望者が多く、人脈でもってお願いをしているのですが、手作りで舞台を作るところから始まるので大変で、縁の下の力持ち的な作業が多く、大変疲れたというのが正直なところですよ。

非常にたくさんの方にお越しいただき、主催者発表としては、3,500人という数字を出していただきました。去年は2,500人でしたので、非常にたくさんの方に来ていただきました。そのためには、ステージだけではなく、キッチンカー等にも協力いただき、シルバーさんにかき氷の販売をしていただいたり、色々ところで多くの方に関わっていただきました。

それらを、どこかでまとめ、企画して取り組むパワーは非常に必要だと感じています。

保存会でも、継続して行うつもりですが、行事が幅広く、イベントの範囲も広がってきて、目が届かなくなっているのも、もっと多くの方の協力が得られるよう、個人的にご協力いただける方を募りながら、広げて定着させていかなければならないと考えています。

とにかく、パワーが必要です。

[吉村会長]

まさに、やりたいという思いを起点に物事が進んでいくことがとても重要で、やらなければいけないからあなたもしてください、という形ではない動き方ができて、そのような取組を応援することが総合計画であってほしいと思います。

行きたくなるようなイベントというのは、やっていくと巨大化していき、それを維持することが目的に変わってしまいがちですので、身の文化するということが大事だと思いました。

何度も言っていますが、皆さんの思いは共有化されているとは思いますが、チャレンジするためには、それをどのように計画化し、落とし込んでいくのかということなので、是非皆さんのお知恵をいただ

きながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今後の全体的な方向性については、ある程度確認できたと思ひますが、文言の調整という話ではなく、まだまだ大きな枠組みを確認していく作業がありますので、委員の皆さまには適宜ご相談しながら、最終的には、会長、副会長、あるいは事務局、松本先生等に確認をしながら、慎重に、適切に進めていきたいと思ひます。

今日は3グループでよかったと思ひています。皆さんに委員になっていただいた意味は、多くの色んな意見を聞きながらやっていくことだと思ひますし、裏の狙いとしては、この委員に巻き込まれた方は、この計画がどうなっていくのか、作ったら終わりにはならないと思ひていますので、それも含めて、今後ともよろしくお願ひいたします

### 3 その他

[事務局]

活発な意見交換をいただき、ありがとうございました。

本日いただいたご意見を踏まえまして、改めて事務局で分野別計画の案を整理してまいります。

皆さまには、修正案としてお送りさせていただきます。

次回の審議会の開催につきましては、8月23日（金）、午後3時から、本日と同じ会場を予定しています。

本日お配りしています参考資料1ですが、未来にツナグ会議2019の案内ちらしをご覧ください。7月27日（土）市役所で午前9時30分からの開催を予定しています。

目指す姿の実現に向けて、本日、ご意見もいただきましたが、市民や地域が中心となって担っていくことを中心に、意見交換をしていただく予定をしています。20～30人ぐらいの市民の方が参加される予定です。市民の思いを直接知ることができる良い機会と考えていますので、皆さま、ご多忙とは存じますが、ご都合がございましたら、傍聴いただければと考えています。

[吉村会長]

以上で全ての予定が終了しましたので、第6回審議会を閉会します。皆さん、ご協力ありがとうございました。

以上